様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　５ 月　７ 日現在

機関番号：１４３０２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ１３９８４

研究課題名（和文）幼児期の協同的な創造・表現を支える素材環境の検討

研究課題名（英文）Analysis of the significance of composing physical environments in the classroom for young children according to her/his representational process.

研究代表者
佐川　早季子（Sagawa, Sakiko）

京都教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：９０７７２３２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、保育者と研究者が協働で、子どもと素材が出会う環境づくりを行い、その環境がどのように子どもの表現を支えるかについて検討した。
具体的には、特定の子どもに対して、どのように表現の過程に応じた環境構成ができるかを検討した。その結果、目的やイメージを周囲にあるもので確かめながらつくりたい子どもには、「落ち着き」「イメージの生成と保持」「素材との出会い」を目的とした環境構成が重要であるといえた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の重要性は、第１に、幼児と素材とのかかわりを詳細に検討したことである。第2に、具体的な素材環境のあり方を提案し、実践の改善につなげたことである。第3に、アクション・リサーチにより，保育者と研究者が協働して素材環境について考え、改善することで、保育者の教材研究や環境構成に関する意識の変容を生みだしたことである。

研究成果の概要（英文）：This study examined how nursery teachers can compose physical environments based on their understanding of an individual child’s needs. An action research was conducted in classrooms at a nursery school through collaboration between the researcher and the nursery teachers. We chose a child for whom the classroom teacher felt that some pedagogical action was required.
The results supported the hypothesis that it is important to create an environment of ‘calm’ that offers the opportunity for the ‘emergence and holding of images’ and ‘encounter with materials’.

研究分野：幼児心理学

キーワード：幼児　環境構成　造形表現　素材　アクションリサーチ　協働

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

１）なぜ今、幼児期の創造・表現を問うのか

日本の保育では、戦後以降、幼児の創造性育成のため描画や製作などの創造・表現活動が重視されてきた。特に、少子化や育児環境の悪化などの要因で、幼児の挑戦の場が限られている現代では、創造・表現活動が、制約のない試行錯誤できる経験を多く含んでいることが注目されている。さらに、近年のテクノロジの発展に伴い、労働市場で需要される業務スキルが、一人で精神的・身体的作業を行う定形業務から他者とかかわりながら身体的・分析的作業を行う非定形業務へと変化しつつある（Ikenaga&Kambayashi、 2010）。このような時代にふさわしい力として、他者と一緒に創造的に考えたり働いたりする思考方法を身につけることが求められている（Griffin et al.、 2012）。そのため、同年齢他児集団と過ごす保育の場で、幼児期から他者と共に創造・表現することを支える必要がある。

（２）協同的な創造・表現を支える素材環境の重要性

認知心理学では、徹底的な探索が創造プロセスを支えることが示されている（Getzels & Csikszentmihalyi、 1976）。幼児期は、手や体全体で素材とかかわることが探索する機会になり、試行錯誤を通してモノの特性をつかみ、創造・表現が行われる。このような意味で、あらゆる特性をもった素材とかかわり、素材を中心に他者とかかわることが創造性の獲得にとって重要であると考えられる。しかし、どのような素材をどのように用意すればよいのかについての研究は十分になされていない。その結果、実際の保育現場では、素材環境についての十分な吟味がなされないまま、子どもまかせの自由放任の指導、保育者によって表現の到達目標と過程が定められた指導といった極端な例が散見される（村田、2010）。2018 年の幼稚園教育要領の改訂に向けての議論でも、幼児が主体的に活動を展開できるかどうかは、保育者の環境の構成にかかっており、保育者が日常的に教材を研究することの重要性が指摘されている（中央教育審議会「幼児教育部会取りまとめ」2016 年）。このような保育者の教材研究に資する研究が必要であることから、本研究では、他者とともに行う創造・表現を支える素材環境について検討する。

２．研究の目的

本研究の目的は、子どもたちと素材とのかかわりに着目した分析に基づく、研究者と保育者の協働による素材環境づくりが、どのように子どもが他者とともに行う創造・表現の支援へとつながるかについて検討することである。

具体的には、①素材環境と子どもの活動との関連について、観察調査を実施する。さらに、その結果に基づき、②保育者と研究者による意図的な素材環境づくりの実践と子どもの活動との関連に関するアクション・リサーチを行い、幼児期の協同的な創造・表現を支える素材環境のあり方について具体的に提案することを目指す。

３．研究の方法

本研究は、協同的な創造・表現を支える素材環境について明らかにするために、子どもの発達の過程に即して素材環境の観察調査を行う。その観察調査に基づき、保育者と協働で園の素材環境づくりを行い、環境の変更、子どもの行動の観察、分析・考察をした上で、さらに環境の変更をするアクション・リサーチを行う。

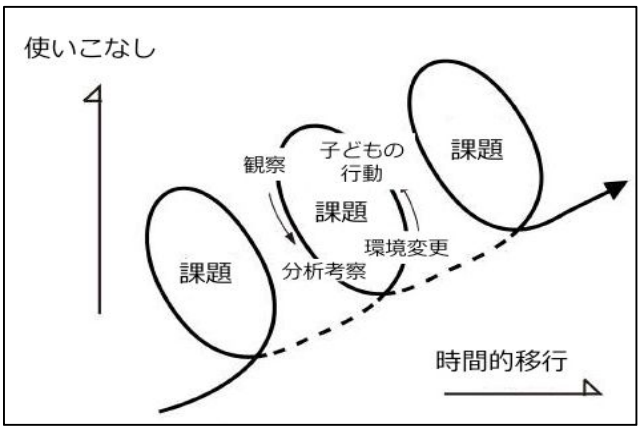

図１　素材環境づくりのアクションリサーチの展開

４．研究成果

研究の成果は、雑誌論文８本、国内学会での発表１本で発信した。また研究する過程で得られた知見に基づき、図書２件に分担執筆した。最終年度には、アクション・リサーチを行い、その成果を京都教育大学紀要にて論文発表した。本論文は、アクションリサーチ的手法を用いて、研究者と保育者が協働で、保育者が教育的な働きかけが期待されていると感じる子どもの捉えに基づいて、教育的意図を環境に埋め込み、どのように「その子」の表現の過程に応じた環境構成ができるかを検討した。その結果、目的やイメージを周囲にあるもので確かめながらつくりたい子どもには、 「落ち着き」「イメージの生成と保持」「素材との出会い」を目的とした環境構成が重要であるという仮説が支持された。

本研究の重要性は、第１に、幼児と素材との間のかかわりを詳細に検討したことである。幼児期の創造・表現は、従来、個人の内的表出とみなされてきた。しかし、幼児がモノと出会う過程を、言語的・視覚的・身体的なかかわりに着目して分析することで、 物的・人的環境との相互作用で生み出される表現について明らかにした。第2に、実践の改善に資する、具体的な素材環境のあり方を提案したことである。幼稚園教育要領や保育所保育指針にあるように、日本の保育は「環境を通して行う教育」を基本とする。このことを踏まえ、保育実践の分析結果に基づいて保育現場の環境を変えるアクション・リサーチを行うことで、実践の改善に資する具体的な素材環境のあり方を提案した。第3に、アクション・リサーチにより、保育者と研究者が協働して素材環境について考え、改善することで、保育者の教材研究や環境構成に関する意識の変容が生じたことである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 佐川早季子	４．巻 24
２．論文標題 こどもが育つ造形	５．発行年 2019年
３．雑誌名 美育文化ポケット	６．最初と最後の頁 44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐川早季子	４．巻 6
２．論文標題 4歳児の製作場面におけるモノを他者に「見せる」行為の機能の検討	５．発行年 2018年
３．雑誌名 子ども学	６．最初と最後の頁 128-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐川早季子	４．巻 140
２．論文標題 保育者の「その子」の捉えに基づく3歳児クラスの素材環境構成の検討	５．発行年 2022年
３．雑誌名 京都教育大学紀要	６．最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 森田水加穂，黒瀬悠巴，前田 玄，佐川早季子	４．巻 1
２．論文標題 年度初めにおける子どもとのかかわり方の幼小比較 ―保育者及び小学校教師へのインタビューをもとに―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 京都教育大学総合教育臨床センター研究紀要	６．最初と最後の頁 61-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 厨子 健一，佐川 早季子	4．巻 26
2．論文標題 保育者によるソーシャルサポートが在園児母親の援助要請に与える影響	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国際幼児教育研究	6．最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野澤祥子，淀川裕美，佐川早季子，天野美和子，宮田まり子，秋田喜代美	4．巻 58
2．論文標題 保育におけるミドルリーダーの役割に関する研究と展望	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6．最初と最後の頁 387-416
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐川早季子	4．巻 55
2．論文標題 幼児同士の仲間関係形成に伴う造形表現過程の変化ー4歳児の製作場面におけるモノを「見せる」行為と製作過程に着目してー	5．発行年 2017年
3．雑誌名 保育学研究	6．最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐川早季子	4．巻 150
2．論文標題 造形活動をつうじて立ちあがる主体的な遊び	5．発行年 2017年
3．雑誌名 発達	6．最初と最後の頁 51-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 佐川早季子
2．発表標題 レッジョ・エミリアの視点から読み解く日本の保育の営み
3．学会等名 日本保育学会第72回大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 佐川早季子
2．発表標題 保育者の「その子」の捉えに基づく3 歳児クラスの素材環境の検討
3．学会等名 日本保育学会第74回大会
4．発表年 2021年

〔図書〕　計8件

1．著者名 小林紀子，砂上史子，刑部育子	4．発行年 2019年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 244
3．書名 新しい保育講座 保育内容「表現」	

1．著者名 中坪史典，山下文一，松井剛太，伊藤嘉余子，立花直樹	4．発行年 2021年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 640
3．書名 保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	

1．著者名 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター，秋田，喜代美	4．発行年 2019年
2．出版社 中央法規出版	5．総ページ数 435
3．書名 保育学用語辞典	

1．著者名 カンチェーミ ジュンコ，秋田 喜代美	4．発行年 2018年
2．出版社 萌文書林	5．総ページ数 205
3．書名 GIFTS FROM THE CHILDREN 子どもたちからの贈りもの―レッジョ・エミリアの哲学に基づく保育実践	

1．著者名 神長 美津子，掘越 紀香，佐々木 晃，齊藤 多江子，佐川 早季子，和島 千佳子，宮里 暁美，山下 文一	4．発行年 2018年
2．出版社 光生館	5．総ページ数 173
3．書名 保育内容 環境	

1．著者名 佐川早季子	4．発行年 2018年
2．出版社 風間書房	5．総ページ数 239
3．書名 他者との相互作用を通した幼児の造形表現プロセスの検討	

１．著者名 R.K. ソーヤー，秋田 喜代美，森 敏昭，大島 純，白水 始，望月 俊男，益川 弘如	４．発行年 2017年
２．出版社 北大路書房	５．総ページ数 195
３．書名 学習科学ハンドブック 第二版 第3巻：領域専門知識を学ぶ/学習科学研究を教室に持ち込む	

１．著者名 イラム・シラージ，エレーヌ・ハレット（秋田 喜代美，鈴木 正敏，淀川 裕美，佐川 早季子訳）	４．発行年 2017年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 208
３．書名 育み支え合う 保育リーダーシップ――協働的な学びを生み出すために	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関